

S. M. Kobayash
Capa 2-7

6. October 1925

Nº 203

SEMANARIO DE SÃO PAULO

聖 め 新報

將來邦人の

植民指導團體

組織されようか

法權の弛緩からもある。

これは先年來各地に突發した邦

人殺害事件に司直が犯人を一向に

厳探したり嚴罰したりしてくれぬ

日本の如く所謂秋霜な裁判權の執

行がない處の物足らなさの不安か

ら起つてゐる不永住的氣分もある

ことは確かだ。

又植民者等に相應な民族的低級

娛樂機關が乏しいといふ缺陷が伯

各縣の植民者等が斯うした氣分で

是迄もむかことはいふまでもない

が、昨今の不景氣に追ひまくられ

た植民者等は、「日本へ歸らう」

との念慮が一層強められてゐる。

「祖國に歸る」無論それは全然

悪いことだと解すべきものでない。

たまつたら三味線のなる芝居の見

られる國で極樂往生したい、生れ

た村の落ち椿になりたい、そうし

た希望をもへ人々は、それが生き

て行く光明であらう、いゝことだ

然し日本植民として此國土に根

れば、現在の邦人植民者等が一儲

けしたら祖國へ歸らう」と急

ぐ氣分は伯國に於ける日本植

民者らしく事業と生活狀態とに

手近い一つは現在の不景氣が植
民者の生活を脅かした恐慌から妙
に祖國生活を植民者に想はせてゐ
る。それに日伯爲替相場が日本への
歸國者に甚好況である點から
「金持つて歸るなら今だ」と小金
持つ在伯者の心をそいつてゐる。
それから日本人が伯國に永住的
御輿を据ゆきらぬ一原因は伯國司
現時の伯國邦人植民の混雜した

Dr. Jayme Halfeld

七 護 辨
民事 商事 刑事

電話二六番

Imprensa

NIPPON

Na Capital deste Estado, em 31 p. fido, surgiu mais um jornal com a epigrafe acima de "Nippon"; que, será publicado semanalmente sob a direcção de nosso amigo, Sr. Tsuguo Kishimoto, colaborado pelos Sres. Ulysses Leot como Redactor-chefe e Takuichi Shimote como Redactor-gerente. Direcção essa que é uma congregação de nipo-nicos e brasileiro, será editado em caracteres e língua nacional. Visando como objecto essencial, tudo quanto se refere a assuntos que se interessa gradativamente com relação aos dois países e seus subditos.

Embora lentamente, o Nippon virá dissolvendo os nós discordantes que se atemiam, como por imprudencia, baseada sobre conceitos inconcretos e sem o menor fundamento e directriz; e, enfim, eliminar muitas opiniões envolto em confusos labirintho, que tão injustamente é desarronioso saborear de parte a parte, por falta absolutamente única, de estreitamento e conhecimento mutuo que, sómente após a divulgação interior poderá definitivamente ficar resolvido as convenções entre os dois povos.

Ao Nippon, auguramos com sincero devotamento para que se desenvolva e progride sempre.

事記の欄本

て就に聞新本日の行發市聖
告報痘種の師牧藤伊

r. S. Takaoaka

Medico e Operador
Rua Fagundes, 8 S. Paulo

師 醫
高 岡 専 太 郎

診察時間

午后三時より六時迄
聖市、フワグンデス街八
電話セントラル四一八〇

農 產 物 買 入

穀物類、カフェー、綿花を多少にかゝはらず
日々の相當相場現金引かえにて買入れます

村 崎 豊 重

北西線ブロミソン驛街

Dr. M. Sasada
Medico e Operador

アテルミー科
(リュウマチ神經痛)
淋毒性疾患に有効)

篠 田 正 數

北西線リヌス町ルキズ、ダ、ガマ街
郵函 虎〇三

Dentista
ノロエスティ線リヌス町
寺院ブロサ前

北米最新式
科 山 中 信 一

仲 買 商
ソロカバナ線セ、セーザ驛
岡 島 仁 郎

Fujisaki & Cia.
S. Paulo

賣 販 種 各 品 本 日

直 輸 入 商
聖市、コ、フルタード街十二
藤崎商店
聖市支店
サンベント街六八A
三四四

蓄 音 器 盤
(レコード)
選り抜き各十三ミル均一



Marcenari
Japoneza
Massagi Koga

家 具 製 造

並 に 販 賣
古 賀 政 次

パウル市八月一日街
(シネマ真前)

△皆さん△
凡 土木業 製圖
精確 責任を以て 御相
談に應申候
ノロエスティ線リヌス市
郵函 一七九
全線 プロミソン市
郵函 八
測量
土木業
一層強して安々易々して上ます。
タベリオン
カルトリオ、デ、
セグンド、オフィン
〔第二代書登記所〕
アルマンド、アゼペード
ヘ出で下さい。皆さん方には一
カフエ受負契約書、土地契約登
記書類をパウル市で入用の時は
公園の廣場、(アントニオ、アルベ
ス街)の
公園の廣場、(アントニオ、アルベ
ス街)の
アルマンド受付
カフエ受負契約書、土地契約登
記書類をパウル市で入用の時は
公園の廣場、(アントニオ、アルベ
ス街)の
公園の廣場、(アントニオ、アルベ
ス街)の
アルマンド受付

形勢を整頓して植民の最も正確な
進路を見出す様、在伯邦人の各線
有志者等聖市に集合し植民指導團
体を組織する期の近づきつゝある
か否か。
BAURU
Estado de São Paulo - BRASIL
Caixa Postal, 58
社主 兼編輯人 香山六郎
Oman Rio de São Paulo •

Roero Kowayama
Redactor

測量
土木業
一層強して安々易々して上ます。
タベリオン
カルトリオ、デ、
セグンド、オフィン
〔第二代書登記所〕
アルマンド、アゼペード
ヘ出で下さい。皆さん方には一
カフエ受負契約書、土地契約登
記書類をパウル市で入用の時は
公園の廣場、(アントニオ、アルベ
ス街)の
公園の廣場、(アントニオ、アルベ
ス街)の
アルマンド受付

電 報 欄

し獨乙船は沈没せりと
(二日ハンブルグ)

● 南米航路の新造船

河南省地方甚だしく秩序が乱れて居り最後報によれば新たに擾乱ある模様にて人心皆驚々たりと
(廿九日ペキン發電)

● ロシヤにて

軍探多數捕縛さる

公報によれば當市に根據を有する敵國軍事探偵團の一昧多數捕縛されたりと、而して彼等はニストニヤの軍令下に活動してゐるものなりといわる

(廿九日レーニンブルグ)

● 張作霖の出兵

上海なる「モーニング、ボストン」紙の派遣員は信頼するに足る或筋の確報により張作霖が宣昌等を占領せる反軍に對し戦ひを挑む由と又ベキよりの報道によると張將軍は七万の兵を召集し武裝させつゝありと因に反軍の數は五万を算すと

(卅日ロンドン)

● 快走船上の珍景

フランス快走船「ボアール」号ロスコツフよりブライマウスへ航海中

實に手に汗を握らせる凄い場面を演じたと新聞は筆を揃ひて書いてゐるそれによれば同船が航走中大暴風にあり強風が突如として席下に立つてゐた船長を製ひ船員の救助されるなど

(一日ロンドン)

● 張吳兩將軍の戦闘

張作霖と吳佩孚との間の戦闘は尙繼續せられ居りと、當地着報によれば吳將軍は大勝を博しつゝある模様にて張軍側は死傷者、捕虜合せて千を以て數ふと

(一日ベキン)

● 汽船の衝突

當港に於て英國船と獨乙船と衝突

△ 笹原運動將軍もさすがに寄る歲の重立つた者を聽講させては

女奴隸の子を産む力だ

人 の 半 面 (二)

虞 石 生

此言葉をきかされたkは唯「は」と音が出たばかりで二の句はつけなんだと語つた トウ／＼k

X 光線

X光線

線用 檢査 治療

X光線 治療

外光線 治療

BACK 腹膜 治療

肺腫 婦科 治療

骨膜結核 三八

DR. J. BRAULIO FERRAZ.

バウルー市

アベニーダ・ロドリゲス、

アルベス、

間時察診

でま時十時半九時半

でま時五時半三時半

聖 州 義 謩

寄宿舍 夜學校

サンバウロ教會

日曜學校及養育會

Missão Japoneza do Brasil

御 下 宿

御技術を願上げます

ジヨアキン友谷共同

小林美登利

井上忠吉

内 日

農產物仲買

安い事第一番の店

上田商店

アルマゼン

アーマゼン

御技術を願上げます

御宿を願上げます



女忠臣藏
(七)

碧る璃園

「奥様へ申上げます、只今お城か幸七どの歸らせてござります」
老女はふすま越しに手をついた
「城中の御模様、直々聞きたい常
はならぬと今日は格別、縁側へ廻
るやう申しつけてたまるまいかの
「お安い御用、すぐ申しつけるで
ござります」
老女が去ると間もなく幸七は牡丹の香り高い庭の中に姿を表した
がばつと流れ立つ、池の緋鯉が波
をたて、青い苔にきらりと光る露
の上を幸七は小腰をかくめながら
進んで縁下につくま、た
「幸七ご苦勞ぢやの」とお陸はさ
り氣なく聲をかけた
「奥様」と云つたきり幸七は、は
らーと涙を流した、年は卅の上
を三つ四つ出たばかりらしい眉の
濃い、眼の涼しい苦み走った男で
あつた
「幸七など數にはなりませぬ、幸
七などの命が百あつても今度の御
用には立ちませぬ、御心中推量左
六共々、泣かぬ日はござりませぬ
それを云ふても返らぬ、城中御
模様早く聞きたい、どうあらうの
「されば若様な心得付け、御評議
の模様は時々ねしらせござります
私等は斯様にた城へつめて皆様と
同席すれば何事も残りなく承知す
れど母上は屋敷に出て、何かに得ます、専
く如くお申しきげござります、そ
の度ごとに御注進申し上げる、こ
れも皆若様御孝心による處、只恐
れ入る外ござりませぬ」
「松之丞様御孝心、今に始めぬ世
にも優しい心掛す、ござりますな」

講州高松の奥村無我の道場へ通つ

てゐた時、一度も欠かさず同行して同じ道を究めたのは瀬左衛門であつた、瀬左衛門とは剣道の流儀を同じうするばかりでなく、その心を同じうした、それに瀬左衛門の兄孫四郎は内蔵之助の従妹を妻にしてゐる、縁は薄いが親類であつた勿論ご出仕でござります」と幸七はすぐ答へた、お陸は墨みかけた
「それは兎も角御評議の模様一刻も早う聞きたい、どうあつたな」
「さればござります、御殉死は中止、それにも仕細ござりませう」
なれど幸七など存ぜぬこと、改め
て尊ねた
「さらば孫四郎殿はの、小山さま
孫四郎は瀬左衛門の兄、小山源五
若様から物語りござります、後
の御評議は當れ城を開け渡し、ご
家中一たん御離散とござります」
右衛門は内蔵之助の叔父に當る
「皆さまお捕、ご出仕でござります」

第三、在留證明手數料は五ミルレ

△徵集延期に關する告示

第一、明治三十八年十二月二日より同三十九年十二月一日迄に生れたる者及現在徵集延期中の者は大正十五年度徵集延期方及在留證明方を出願すべし

第二、在留證明願の日附は大正十四年十二月一日以後の事、但し右願書の受附は便宜上本年十一月五日より開始す

第三、在留證明手數料は五百レ

ースとす

但し本籍地へ願書發送希望の者

は手數料の外書留郵送料八百レ

ースを要し(返信希望は更に二百レースを加へ)「コンバーラ」郵便爲

替、若くは銀行爲替にて送金す

べし

第四、手數料、郵送料、返信料は

成べく願書と同封に發送すべし

止むを得ざる場合金員丈を發送する際は送金人の氏名、本籍、現住所を記したる書付を同封す

べし

第五、本年初めて證明願を出す者に限り日本出發伯國上陸年月日を左の通り記入する

第六、願書の宛名は左の如く記入する

第七、在留證明に關し當館に照會する場合は發信人の氏名、現住所の外書留證明書を本人より直接郵便を以てし其領取証保存し置く

第八、在留證明書と共に右届出本籍地へ送付の場合は必ず書留

ます

第九、在留届又は轉居届未済の者は在留證明書と共に右届出

べし

第十、在バウルー帝國領事館

在バウルー帝國領事館

Caixa Postal A Batumi

和洋御料理一切

サントス市

ランゼールベスター一九二四八三二八

電話

郵局

三二八

潮ほてる

館主 前田吉太郎

和洋御料理一切

HOTEL USHINO

和洋御料理一切

和洋御

▲パウル領事館の天長節夜會 佳節だ、芳酒一樽とパウル領事館では十月卅一日午後七時より管轄内の重なる在留民を招いて宴會があつた金融的に不景氣最中で來れぬ人も多かつたがノロエヌテ線より山根寛一、輪湖俊牛郎、間崎三一夫妻の諸氏パウリスタ線より志賀伊之助氏ソーカバナ線よりは岡鷲仁郎氏が揃はれた、本社主香山夫妻も出席、古關氏の謠聲も賑やかに十一時散會した

の家に二日はイタリアノの家に亘
に伊太利人から引張つて行かれた
が……此兒は日本語もブラジル語
もよう話せない低能兒である、鶴
は東に居るらしい、ハイは北に
ではない離でもないようだ、が白
身からは何んにも話せない、手直
似足眞似を交はつゝきけばマ、ハイ
と答へる、塩のことを「マサ」とか
云つて所を見ると沖縄縣人らし
くもある、パウリヌタ線ビラチニ
ンガの方から來たようでもあり、
ノロエステの方から出て來たらし
くもとれる

左(か)の耳朶後に中耳炎を病み切
開したらしき古傷痕あり、少しく
質問を長く続けると兒は自分の頭
を指して(ウ)と呻なる目下當吉
沖山ホテルに保護中である、親が
あつたら引取つたらと皆人が心配
してゐる、仕事をすればよく働く
が何うかすると黙つて遊に飛び出
す、幸ない兒、放浪の兒であろう
か、それとも迷ひ子であろうか

△出版物

●出版物

△在伯日本人同仁會から「重な小
兒病の考」一方と収救「方」と云
小型百十六頁の衛生叢書第二編が
出た、述者は渡邊醫學士、各地の
在留者に分配するなど、う、望み
の人は同會へ申込み

△南米評論 天長節号の南米評
論が出た

△南聖出づ サントス港同人の
月版南聖出づ沖縄縣人の多い地方
丈けに南聖は沖縄同人誌の趣きが
あふれてゐる

△O Registro出づ イグワツベ
殖民地若武者有志等の發行せる
オーレジストロ出づ、十月廿六日
号記事皆横文字である

△「Nippon」を發行 岸本次男氏
が持主で、「日本」は横文字葡
週版らしい、編輯長はウリセス、
レロット氏、日本宣傳いゝ事の一
つだ永續を期待したい

△かまくら丸 来る五日入港の
カマクラ丸には來伯新同胞もか
りある由、北西線の山根寛一氏は
五六家族を出迎ねに二日夜バウル
通過出聖

▲ロンドン將軍の
一日夜の十二時、マリアノ、カ
ンデド、ロンドン將軍はノロエス
テの特別列車にて幕僚従々、マト
グロツソ州へ向ふ
○三共商會の「イリコ」大賣出し
亞熱帶の食物は山の物より海の
ものが味のいゝんでなんて……そ
れは互ニツボン人は海近い育て
で海の物すぐからさ 三共商會
の賣出し「イリコ」うまいイリコと
評ばん
○瀬木商店の種子物賣出し
セボーラ種子、レボーリオ種子
本場から直輸入の發芽良好種子其
他いろいろ新荷賣出す
車と貨車の衝突
▲セントラル線の慘事
サンバウロ第二夜行キヤク
一日夜十二時過ぎセントラル線の
エンヂネイロ、バツソ驛とイタモ
ア駛間にてサンバウロ行き二番電
行と貨車とが衝突し十名の死者と
五十名の負傷者を出したとの噂は
余り大ゲサで實は三人の死者と士
數名の負傷者を出したのだつた
死者中の一人にアメリカ、フツチ
ボール俱樂部の部長があつたと
▲盜みそなつて捨てなく
柳行李二個と 布団一縛りのみ
三日の朝舊ソロカバナ驛側の一
伯人が慌たゞしく九州旅館に馳せ
けた、きけば彼のキンタルの内
外に日本人の荷物が捨ててあるから
一寸来て見てくれと、それから
皆が大騒ぎしだし現場に押かけた
處、田尾と記した柳行李一個は
何にも入つないで、あたりに重管
と飯杓子が落ちていた、一つの柳
行李は綱を切つたばかりで羽織の
袖がハみ出して居た、布団は繩は
らげのまゝ泥に汚れぶくれ面して
ころがつてた 早速其筋に届出
た由斯んな場合は荷主が驛から荷
を引取らず驛員に荷の不足を申立
て腰強く談判すりや物になるんだ
が、荷を驛から愛取たが最後モ
苦情の持つて行先がなくなる

CASA ANSE Armaçem e Machina de Benificiar Café	Altaiataria Vabe SAO PAULO ~~~~~ 型米新最歐	前眞驛 館旅尾澤 七機尾澤	六五四三二一 日最高二三、五度最低二、五度 二三、一 二一 二二 二四 二三、九 一九 二二 一九、五
商 貨 雜 雜 安 安 穀 穀	見テ體裁ヨク 着テ着心持ヨク 御休ニスツキリ ノ特色デス 迅速町噂ニ 合フ様ニ 調製致シマスノガ 御用命ニ應ジマス 聖市コンドレ街一九 電話セントラル三四三四	矢部洋服店	本社編輯室内の 溫度表

